

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

*公世の二位のせうとに、良覚僧正と聞こえしは、きはめて腹あしき人なりけり。坊のかたはらに、大きな榎の木ありければ、人、「榎の木の僧正」とぞ言ひける。この名しかるべからずとて、かの木を切られにけり。その根のありければ、「きりくひの僧正」と言ひけり。いよいよ腹たちて、きりくひを掘り捨てたりければ、その跡、大きな堀にてありければ、「堀池の僧正」とぞ言ひける。

(『徒然草』四十五段)

問1 本文中の歴史的仮名遣いの部分を抜き出して、現代仮名遣いに直しなさい。

問2 傍線部(1)「腹あしき」の現代語訳として最適なものを次の中から選び、その記号を書きなさい。

- (ア) 腹黒い (イ) 性質が悪い (ウ) 腹を立てやすい (エ) 欲が深い

問3 傍線部(2)「しかるべからず」に適切な漢字を当てるとしたらAのどれがよいですか。またBから意味として最適なものを選びなさい。

* 公世の二位＝藤原公世。従二位で歌人であった。

* せうと＝兄弟。

* 聞こえし＝申し上げた。

* 坊＝僧の住居。

- A (ア) 然るべからず (イ) 叱るべからず (ウ) 仕掛るべからず (エ) 支かるべからず

- B (ア) 叱りつけてやらねばならない (イ) それではよろしくない
(ウ) そうつけてはならない (エ) 身分・地位に対して不足である

問4 傍線部(3)「切られにけり」、(4)「言ひけり」の主語を、それぞれ本文中から抜き出しなさい。

- 問5 本文中に三回使われている「ありければ」の意味として最適なものを次の中から選び、その記号を書きなさい。
い。
(ア) あったので (イ) あるとしたら (ウ) あったとしても (エ) あるけれども

問6 この話のおもしろさはどういふところにありますか。次の文の空欄を十五字程度の語句を補う形で説明しなさい。

良覚僧正が

ところ。

《補充問題》

次の文章を読み、各問いに答えよ。

①花の咲き散るをりごとに、^{*}乳母亡くなりしをりぞかし、とのみ^②あはれなるに、同じをり亡くなりたまひし侍従の大納言の御むすめの手を見つつ、^{*}すずろにあはれなるに、五月ばかり、夜更くるまで、物語をよみて起きるたれば、来つらむ方も見えぬに、猫のいとなごう鳴いたるを、驚きて見れば、いみじう^③をかしげなる猫あり。いづくより来つる猫ぞと見るに、姉なる人、「^{*}あなかま、人に聞かすな。いとをかしげなる猫なり。飼はむ。」とあるに、いみじう人なれつつ、^④かたはらにうちふしたり。

(「更級日記」)

問1 傍線部①の「花」とは何の花か、最も適切なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選び、その記号を書け。

- (ア) さくら (イ) ぼたん (ウ) あじさい (エ) うめ

問2 傍線部②の「あはれなる」のこの場面での解釈として最も適切なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選び、その記号を書け。

- (ア) 心を打たれる (イ) 趣深い (ウ) 悲しい (エ) 気の毒だ

*乳母：母親に代わって、幼児に乳を飲ませ養い育てる女性。
*侍従：天皇のそばに仕え、雑事に当たった職。
*手：(手紙の)筆跡。
*あなかま：しつ、静かに。

問3 傍線部③の「をかしげなる」の解釈として最も適切なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選び、その記号を書け。

- (ア) おとなしい (イ) みすぼらしい (ウ) たくましい (エ) かわいらしい

問4 傍線部④の「かたはらに」を現代仮名遣いに直して書け。

問5 この場面で、姉が人に知られたくないと思っていることとして最も適切なものを、次の(ア)～(エ)から一つ選び、

その記号を書け。

- (ア) 夜遅くまで起きていること
(イ) 物語を読んでいたこと
(ウ) 猫がいること
(エ) 猫の鳴き声に驚いたこと
-